

## 第202回 番組審議会

1. 日 時 平成23年5月10日 (火) 12:00～
2. 場 所 ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウィング 3階「星雲」
3. 委 員 委員総数 12名  
出席委員数 7名 (欠席委員数 5名)

### ○ 出席委員 (敬称略)

中村 慶久 (委員長)

三浦 宏 (副委員長)

—以下50音順—

久慈 浩介

斎藤 雅博

藤原 保雄

八木橋 伸之

吉田 浩次

### ○ 会社側出席者 (7名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)

小原 忍 (専務取締役)

藤澤 利憲 (常務取締役)

前田 秀男 (取締役編成技術局長)

藤原 銀司 (取締役営業局長)

君沢 温 (報道局報道部長)

高橋 裕二 (報道局報道部)

### ○ 事務局 村田 重昭

4. 議 題        mit スーパーニュース特別版  
                  ～1 ヲ月が示す復興のビジョン～  
                  平成23年4月10日(日) 13:00～14:55放送

#### 5. 議 事 概 要

今回は4月10日に発生した「mit スーパーニュース特別版 ～1 ヲ月が示す復興のビジョン～」審議しました。出席した委員からは「阪神大震災を経験した方の解説が分かりやすく街づくりの大変さが理解できた」、「子どもたちの笑顔が希望の光に見えた」、「震災を風化させないために、今後も節目節目に放送してほしい」など番組を評価する意見がありました。

また一方で「復興のビジョンをうたうのであればもっと検証が必要だった。」、「項目に分けて内容をもっと掘り下げ、もう一度放送してほしい」などの意見がありました。

#### 6. 議 事

##### ○事務局

それでは、ただいまより第202回番組審議会を開催致します。

本日も欠席の委員は、斎藤純委員、東海林委員、菅原委員、村上委員、役重委員です。

今回の議題は、3月11日に起きました「mit スーパーニュース特別版 ～1 ヲ月が示す復興のビジョン～」です。本日は報道部長の君沢とディレクターを務めました高橋報道部員が出席しております。

○事務局    それでは、中村委員長よろしくお願ひいたします。

##### ○中村委員長

それでは議事に入ります。君沢さんと、高橋さんから説明をお願いします。

##### ○君沢部長

3月11日の地震、大津波の発生当初は、私たちも何が何だかわからないまま、とにかく起

きている事をそのまま伝えて、1週間位が過ぎました。その後いろいろな事がじょじょに分  
かり、課題が見えてきて、伝えなければいけない事が少しずつ分かってきた頃に、震災後 1  
ヶ月の特別番組を企画することになり、制作は高橋に任せることになりました。高橋も私も  
生まれが宮古市で、自分たちの古里が無くなったことに対して、何とか皆がもう一度立ち上  
がれるような番組を作りたいと話したことを覚えています。

1ヶ月という節目に何をやろうかという事で、一番に考えたことは、避難されている方が  
まだ5万人近い状況ということでした。そうした方々の避難所の問題とか、その先抱える生  
活への問題、仮設住宅の問題や生活再建、職業確保への動き等々をテーマに考えました。現  
場での取材がままならない状況でしたが、たまたま私どもに系列の関西テレビさんが地元応  
援に入ってくれており、阪神淡路大震災の先例について情報をいただくことができていまし  
た。そこで、どういう問題が出てくるのか？ どういうふうに解決していけばいいのか？そ  
ういった部分の指針をいただきながら、我々の番組を構成してみようかという話しをしまし  
た。

今回の震災以降、テレビで何ができるのか、何を伝えていかなければいけないのか、自問  
する日々が続いていますが、とにかく地元の人に役に立つ事と、時代を切り取って残す事の  
2つをやらなければいけないと思って作ったつもりです。ご審議をよろしく願いいたしま  
す。

#### ○高橋報道部員

ディレクターを務めました高橋です。よろしく願いいたします。今、君沢からお話し  
したように、私も宮古の出身です。親せきが一人遺体で見つかりまして、また野球部のチ  
ームメイトの妹は行方不明のままです。そして、後輩の家は全てガレキさえも残らないぐら  
い流されていました。また、釜石でも友人や親しい人たちが多く犠牲になりましたし、生き延  
びたものの自ら命を絶ったという先輩もいらっしゃいます。そうした中で何を伝えるべき  
か？ということを考えました。

まずは、現実には現実として受け止める事も大切だと思いました。その上で、上を向いて出  
来る事をしていこうというメッセージを、大テーマに掲げました。そのために3つのポイン  
トを私自身は考えました。ひとつはまず被災者の生きる力となるような内容。2つ目が行政  
の方々の新たな視点になるような政策。そういったことを感じ取れるようなものを表現で  
きればと考えました。もうひとつ、おそらくいるであろう、県内の震災と関係性が薄いと思

震災に関心が低い人たちに対し、考えを改めるきっかけにしてもらえればと思って作りました。

番組全体を3つに大きく分け、さらに6つのブロックに細かく分けて構成しました。1と2のブロックでは「知る」、3と4では「考える」、5と6では「前を見る」という構成になっています。

細かくお話していきますと、ブロックはCMをはさんで1つ、2つと数えていきますが、1つ目では、まず1ヵ月を振り返るということで、着実に被災地が歩みを進めてきた事を伝えようと思いました。そのために以前、取材した幼い兄弟が、その後1ヵ月の間で、どのような心の変化、心境の成長、その後ご両親がどのようになったのかを紹介しました。あの幼い兄弟が、その後どのようになったのか？という思いで見ている方々もいるかと思います。一過性の取材ではなく継続取材が大切だと思いましたので「こんな兄弟がいます、可哀想ですね」と一回で終わるのではなく、被災者の視点に立った報道という意味で継続して取材すべきだと思ひまして、この兄弟を取り上げる事にしました。

もうひとつは関心が高かった防潮堤の検証です。このテーマを出演する2人のキャスターのレポートという形でまず1つ目に持ってきました。2つ目は被災者の現実という事で消防団を取り上げました。家族よりも住民救出の使命があるというところです。あとは現在の避難所の課題になっていると思われる事を取り上げました。

3つ目、4つ目は「考える」ということで、阪神大震災から学べる事を考えました。君沢部長に相談し、関西テレビから解説できる方に来ていただくことになりました。私自身もたくさん知る事、学ぶことが多かった3つ目、4つ目のブロックで、ここに一番多くの時間を割きました。2人の解説者のうち、1人目は先ほどお話した関西テレビの編集長を務めている方です。スマトラ沖地震津波も取材しておりますし、もちろん阪神淡路大震災でも、第一線で取材された方です。4つ目のブロックでは、岩手大学の南教授にお話を伺いました。お願いの電話をしたところ、二つ返事で「ぜひ」と言っていただきました。5つ目、6つ目のブロックでは、これからという事で、ここでは中継で高田高校のバレー部を取り上げました。私自身、高田高校のバレー部は、春の高校バレーの実況で何度も取材をしています。単なる練習開始にしてはならないと思ひまして、地域のシンボルが動き出したという、もっと大きな意味でのテーマで、この高田高校バレー部を取り上げました。6つ目、最後はエールということで「これから頑張っていきましょう」というメッセージを込めたつもりです。番組の中ですぐにEメールやファックスなどを視聴者の皆様から頂戴いたしました。それをすぐ

に番組の中で紹介することで、出演してくれた方、取材に応じてくれた方、そして被災者へのエール、応援、御礼ということにも繋がったのではないかと考えています。

私も4月下旬に1週間、高田、大船渡、大槌に、また取材に行ってきましたが、被災地ではしっかりと物事が進んでおり、少しずつではありますが、復興に向かっていくという手応えを感じました。

また「孤独死」「関連死」は、阪神淡路大震災の中でのテーマにもありましたが、そういった私たちが今までに経験した事のないこともたくさんありますので、そのような問題を事前に調べて取材し「孤独死」「関連死」、などということが現実には起きないようにしていくのが報道の使命だと思っています。このたびの2時間の特別番組の経験を通じて、今後の番組づくりに生かしていければと思います。長くなりましたがよろしくお願いいたします。

#### ○中村委員長

それでは委員の皆様からご意見、ご感想を伺っていきたいと思います。

藤原委員からお願いします。

#### ○藤原委員

長時間で内容も盛り沢山の番組でしたので、おそらく多くの委員の方がいろんな事をおっしゃるだろうから、今日は短めにやろうと思ったのですが、生憎そういう訳にはいかなくなって困っています。最初に伝えたかったことは、めんこいテレビの番組で涙が出たのは初めての経験だったということです。審議委員としての目ではなくて、個人的に一視聴者として、非常にジーンと来たというか、それが一番、個人としての率直な感想です。

今、番組の構成について説明を受けた訳ですが、私もおそらく3つで構成されていると思っていました。1番目が発生と両親を亡くした子ども達、被災者の表情、現場の状況。2番目に、このタイトルにありますビジョンを持ってきて、3番目にまた現場の被災者の方々の明日への動きを紹介していました。番組構成としては、とてもうまい具合にやったと思います。メインである所の2番目の復興のビジョンでは、阪神淡路大震災を教訓として、関西テレビの編集幹部の方の説明がすごく分かり易くて、解説の方の起用が、とても成功したのではないかと思います。

仮設住宅の問題で、高齢者を優先するばかり高齢者だけが集った住宅地が出来てしまったという問題の紹介がありました。こういうことは切実で、県内の自治体関係者にも非常に教

訓になったのではないかと思います。

それから道路を拡幅する時に、区画整理の手法をもって、大きな土地を持っている人は公園とか道路用地に提供していただいたこと等を、きわめて分かり易く、経験を踏まえて話されていたので、一般の視聴者にとって非常に分かりやすく、街づくりの基本的な考え方について理解を深める事ができたのではないかと思います。このことはけっこう難しく、八木橋先生のご専門になるかと思いますが、建築基準法84条の建築制限は、2ヶ月程度で区画整理の事業が主導ですからイイのですが、39条ですと期限がないので本当に建てられない。私権を相当程度、制限されるという問題がこれから起きてくる、これは実際起きています。県はある程度方針は示しましたが、地元自治体で今はまだ混乱しているという状況の中で、神戸の大震災の教訓を提供しているという点でも有意義だったと思います。

私が一番グッと来たのは、第3部にあたるところで、震災後に避難所の女の子が初めて歌ったところでした。つられてお母さんが「どうしても自然に涙がこぼれてきて」と言った辺でグッと来ました。現場の生の様子が被災者への思いを非常に寄せてくれる素晴らしいシーンだったと思います。

それから、空手選手の高校生が東京の大学へ行くというシーンがありましたが、バスを見送って終りかと思っていたら、東京にも取材に行ったんですね。入学式の様子もきちんとフォローして取材していました。そこも取材の広がりや深さという点で良かったと思います。

最後に取材現場に出向している人はもちろんですが、新聞社でいうとデスクというか膨大な情報をテレビ局の中で編集する人、どのカットを使っているのか、相当程度捨てている映像があると思います。それをうまく取捨選択をして目には見えない、一般の人にはわからないところで、おそらく相当程度、苦労されているという事も感じました。硬軟を織り交ぜていて、全般的には非常に良かったです。ひとつ注文がありまして、番組のタイトルは「復興のビジョン」ではないと思いました。全体のトーンとすればもう少し柔らかめの、例えば「3.11そして今日から」とか、そんな柔らかなテーマの方が全体の包んだテーマとしては良かったのではないかと思います。復興のビジョンだと2部に当たる所だけですから、その辺りがちょっとだけ違和感がありました。

中村委員長

八木橋委員をお願いします。

## ○八木橋委員

3部構成だという話を今日伺って、ある意味で納得しました。私もタイトルにちょっと違和感を覚えました。最初に「復興のビジョン」と出てきたので、いろんな議論がされるのかと思って見ていました。藤原委員からも出ましたが、「震災から一カ月後の状況、今」とか「一カ月後の今」とか、そういうタイトルだと分かりやすいのですが、「復興のビジョン」となると話しが大きくなるので、そういう目で見るといろいろと言いたい事が出てくる。

中原委員も退任されたので、代理で少し気になった点を言います。前にも言いましたが、「ビジョン」と言うためには絶対に検証が必要です。神戸と違ってなぜ物流が遅れたのか？通信手段がなぜ確保されていないのか？例えば拠点病院には衛星携帯を無料で配布しておくべきだったとか。電話が通じないから薬が届かないなどという馬鹿な事を言うなど。それから防災ヘリをあと数機買っておかなかったのか？などいろいろな問題が出てきます。

実は番組の中でヒントになるような事がずいぶんと出ていて、南先生は高台移設住宅の土地問題を話されていました。神戸の話題では、区画整理の話などいろいろな話が出ていました。そういったものを掘り下げるべきだった。

さらに生活復興というのが出ていましたが、それはその通りです。これは県知事がいろいろと言っている面がありますので、そういったものもあの時点で紹介しておけば良かったのではないかとその辺の検証を少しすべきではなかったかと思えます。未来篇はそうした検証という意味で、私は3人の青年の行方が非常に気になりましたので、いい場面だったと思えます。あとはバレーを出すか災害FMを出すか、それは好き好きというところだと思えます。3人の青年のコーナーは、検証のうえに成り立っていくと非常に良かったと思えます。

問題点を番組の中から拾っていくと、高台移設住宅の問題があります。ひとつは明治と昭和の津波で、住宅の高台移設は議論されているんです。結局、今と違って車がないので不便だということで皆、下に降りてきている。2回とも失敗しているわけです。3回目成功するかという保障はありません。それをやるには、実は建築制限をかけなければなりません。あの時点で宮城県の知事は建築制限をかけると言いました。しかも沿岸部は5階建て以上の建物を建てると。天井高が2.75メートルですから、コンクリートの厚さを入れると3メートルです。5階以上だと15メートル。屋上だと16~17メートルになりますから、15メートルの波が来ても屋上に逃げれば助かるという、そういう構造だと思えます。非常にいい事だと思うのですが、例えば宮古の市場を6階建ての鉄筋に立て直したらいくらお金がかかるのか？とか、そういった問題が出てきます。商業施設、水産加工工場も6階建てにして集積す

ると、当然たくさんの方が集まるので駐車場が必要になります。そういうことで道路を広くすると、自分のビルを建てたくても建てられない。お前のところは駐車場だと言われてしまうかもしれない。そういった問題が出てくるので、土地問題は非常に大きな問題です。今だと高台に住宅があっても、車で働きに来るということは可能だろうと思います。その辺の問題は、宮城県の知事は早くに打ち出していますが、岩手は建築制限をかけただけで住宅構想は出していない。その辺をやらないと上手くいかないという気がします。せっかく南先生が言っていました高台移設住宅については、批判的な意見もありますが、真面目に検討しなければならぬ時期だと先生が話されていたのは、実は過去何十年も無理だったという実績があったからです。今やろうとすると現行の法律上の難しい弊害があって、特に神戸の区画整理の例を出されていましたが、区画整理はたぶん上手く行かない。区画整理は平時の法律ですから、緊急時には役に立たない。やるとすれば都市計画を作って事業認定を国交大臣から受けて強制的にやっつけていかないといけないのですが、そんな大事ができるわけがありません。事業認定を受けるには時間がかかりますが、宮城県知事が早い時期で6階建て構想を出したということは、おそらく国交省と喧嘩してでもやるという気概が強く伝わってきて、たぶんやるのだろうと思います。岩手県も負けずに建築制限をかけたけれども、その後どうするのかという話しが出てきていない。高台移設住宅は歴史的問題だけれども、土地問題を解決しないとできないです。その辺の検証について「ずっと批判的なご意見もありますけれども」としか南先生は言わなかったけれど、そこをもう少し掘り下げてもらえば良かった。岩手県が遅れているとは言いませんが、ちょっと出だしが問題だという気がしました。

番組の中で出てきた生活再建。これは岩手県の知事はすごくいい事を言ったんですよ。生活再建のために、特に沿岸部の漁業を再建するためには漁協で船を買えと。それを個人に貸せと。そういう事を比較的早い時期に言っていました、これは非常に良い事であり危険なことです。簡単に言うと漁業のコルホーズにみたいになってしまうので、何年か経ったら個人に売り渡すという後付をしないと、上手くいかないだろうということなのです。漁業のカキ棚、養殖棚とか、そういうのを漁協でいったん全部お金を出して買って組合員に貸す。リース構想ですね。これはいい事なんだけど、久慈から高田までやったら一体いくら金がかかるのかという事、後始末をどうするのかという事で、大変な問題もあります。その後、知事はそのことをあまり言わなくなりましたが、たぶん農水省が面倒をみるとは言わなかったのかなあという気がします。本当に岩手県の漁民を救う気があったならば、それぐらい言っても良かったのではないかな。せっかくいい事を言ったのに後追いが無いのがちょっと残念でし

た。生活再建という事を番組の中で言っていますから、せっかく達増知事がイイ事を言っているのだから少し取り上げて、どうすれば良かったのかという事を言ってもらえれば良かった。

もうひとつは生活再建の中の二重ローンの問題です。これは最近になって言っていますが、実はこの構想は4月の始め頃、日弁連の親分が言っています。それはあまりに過激でして、住宅ローンをチャラにしろ！ 銀行に泣けという判断ですね。これは「永仁の徳政令」なので私は実現しないと思って聞いていました。最近、岩手県がやっているのは1兆円を借りて、そのローンの条件を緩くしろというのをやっています。この議論は4月の始め頃からずっと出ています。そうすると純粋な漁業者ですと漁協の正組合員ですから、たぶん農水省が面倒をみる。そこからもれた中小の水産加工業者は、今言った銀行さんの問題になる。それから一般の労働者の津波で流された家の住宅ローン、ここが誰も面倒をみないから日弁連ではチャラにしろ！ と言っているわけです。良いか悪いかは別ですが、たぶん実現しないと思います。その辺の生活再編という事であれば、その辺の検証もやってもらえれば良かった。

区画整理は、平時の法律で緊急時には使えない。災害対策基本法などでは、県知事は他人の土地を、ある期間は勝手に使えます。でも、それは2ヶ月とか6ヶ月とかと決まっていて、それ以上永久に使おうと思ったら、区画整理をやるかということになります。区画整理は平時の法律ですから、組合員総会を開かなくてはいけないけど、そんな事はやってられないでしょう。そうすると事業認定を受けて土地収用を掛けて、強制的に取り上げてやっていかないと都市計画は進まない。その辺の時間との戦いがあるので、生活再建とかそういった問題をせっかく番組の中で、出演された皆さんがチラッ、チラッと言及していたので、その辺を取り上げてやっていけば良かったと思います。

1部の記録篇は良かった、良くまとめたと思います。第2部の「考える」の検証をもう少しやってほしかった。それとの関連で1部で取り上げた子どもたちは課題です。未来編の3部は非常に良かった。その3部の中で大変良かったのは、3人の青年の部分です。良かったんですけど、実は孤児の問題をどう考えるかというのは非常に大きな問題です。法律を改正してやるかという議論にはなるのですが、誰が里親になれるのか？日本では特別養子制度というのがありますが、非常に要件が厳格です。もし養子にしてやる場合、どうやってやるかというような事を少し考えなければならぬ時期に来ています。こういう言い方をすると怒られそうだけれども、私の知人に高田の20代の市役所職員がいました。福祉関係の仕事

で結局、地震警報で飛び出して老人たちを助けに行ったんです。結局、津波に巻き込まれて亡くなりました。20代の青年が年寄り助けるために死んでもいいのかという議論はあると思います。極論を言いますと、見放してもいいとは言わないが。「津波の時はてんでんこ」という言葉あるわけです。親兄弟といえども別だ！どこまでがやるべき事で、どこで線を引くかというのが難しい議論ではあります。復興を考えた時に、若い労働力を残しておかないと町は絶対復興しない。特に東京に行った青年が、卒業したら岩手に帰ると言っていたのは実に良かった。ああいう若い労働力をどうやって確保できるか。少子高齢化の中で若い労働力が無くなっていくと、復興も危なくなってくるので、その意味で3人の青年が非常に良かったなと思います。それとの関連であの両親が行方不明の子ども達はどうなるのか。岩手の中で養子先が見つければ良いけど、見つからない時は大変な事になる。その辺を考えると、2のブロックの検証を、もうちょっと頑張ってくれば見応えが出たのではないかと思います。

#### ○中村委員長

今後の課題がいっぱい出てきたような気がします。

では、斎藤雅博委員お願いします。

#### ○斎藤雅博委員

震災後ほぼ2ヶ月が経過したわけですが、津波の映像を見るたびに凄まじさを感じて、心が痛むことには変わりはありません。今回の番組は1カ月経過時点での震災関連番組という事でしたが、震災後の様々な状況を振り返ることができ、考えさせられたという意味で、非常に良い番組だったと思います。

タイトルに「復興のビジョン」とあったのですが、前のお二人の委員が話された通り、その割には具体的なメッセージがあまり伝わって来なかったのも、そういう意味ではちょっと突っ込みが浅かったように感じました。例えば震災孤児と見られる及川兄弟について、1ヶ月の時点で決め付けていいのかという問題はあったと思いますが、彼らが両親を待っている事や、避難所で頑張っている様子が本当に伝わりました。震災孤児についてどう考えるのかということは、復興のビジョンの中でもかなり重いテーマだと思いますので、何か一言あっても良かったと思いました。県の方では小中高一貫の学校を作って、と言っていましたけど、私は基本的にはあれには反対です。私の知り合いに、県の里親協会の会長をしている方がい

ますが、「もう受け入れをしますよ」と表明しています。ビジョンというのであれば、そういった事も含めて報道してほしかったと思います。

防波堤、防潮堤についても津波の減殺効果が説明され、一定の効果はあったけれど防ぎきれなかった。あとはソフトが必要だというような話がされていましたが、だからどうしたらいいのかという事では、具体的なビジョンは示されておりませんでした。震災後1カ月の段階で、宮城県では3つのパターンで復興の構想を出していました。構想の具体的な形を示さないと分からない点があったのではないかと思います。では、どうすればいいのかという点で、私もちょっと不満でした。

2番目の関西テレビの橋本さんは、やはり阪神淡路大震災を経験しているのです。彼の話しは経験を基にしているという事で非常に分かり易かった。

孤独死の事を話していましたが、今は既に孤独死については今の仮設住宅にどんどん生かされているそうです。大船渡の広田地区でしたか、民有地を借り受けて自分たちのコミュニティで仮設住宅を作りました。阪神淡路大震災の教訓が生かされていると感じました。先人の教えという事では、先ほど八木橋先生からお話があったように、高台に住むという事なんですが、宮古の姉吉地区と陸前高田の集地区で、結局は人間の驕りといいますか、防潮堤も出来たから安心だということで、どんどん海に近い方に下りていって実際は被災している。自然に対する対処の仕方をよく考えなければいけないと痛感させられました。

最後の部分では、高田高校のバレー部や、釜石の高校生たちの話しが出ていましたが、希望や熱意がよく伝わってきて、非常に明るい気持ちで見ることができたので良かったと思いました。

小笠原選手の同級生の話しが出ていましたが、私は今回、小笠原選手を見直しました。サッカーの選手として、もちろん素晴らしいと思っていましたが、県出身の有名人のなかで彼がいち早く現地に入って来て、すごくいろいろな活動をしてくれました。彼は本当に人間性も素晴らしいと思って見ておりました。是非、継続して活動していただきたいと思いました。

全編を通じてですが、子どもたちをいろんな場面で取り上げていました。子どもたちの笑顔は、本当に希望の光りというような感じで見ることができて、非常に良かったと思います。

そのなかで、山崎和奏ちゃんの歌の話しがあったのですが、お祖母さんが震災後、初めて歌ったんですよと話していて、私はそこをととても重く感じました。子ども達の中にそうしたPTSDですか、そういったものがかなりあるんだろうなと思います。橋本さんもその話しをしていたはずですけど、この対策をきちんと早い段階でやらないといけない、本当に心

の問題というのは重要ではないかと思います。そういった点についても、もう少し突っ込んだ報道をしていただければ非常に良かったのではないかと思います。いずれ振り返るといふ事と、考えるという事では、非常に良い番組だったと思います。

#### ○中村委員長

久慈委員、お願いします。

#### ○久慈委員

私も番組を見て、まず一つ思ったことは、こういった報道は1ヶ月だけではなく2ヶ月、3ヶ月と続けていかなければならない、それが被災地のテレビ局の使命ではないかと強く思いました。「風化させてはいけない」と、よく全国放送で上から目線でそう言われています。全国は原発のニュースばかりやっていて、そうでないところはどんどん取り残されていく。そういう中で、きちっとした形で残すというテレビの使命は、被災県のテレビ局としてやっていかななくてはならない。そして、追いかけて行くということもその通りだと思います。毎月やれという事ではありませんが、ぜひ、節目節目には必ずこういった形で残して行く事が大事だと思いました。

内容に関しては全くもってその通りで、なかでも私が一番良かったと思ったのは阪神淡路大震災との比較です。阪神と比べて、ああだったこうだったと、けっこう言われますが、あのように詳しく聞いたのは初めてでした。現場を経験した解説の方のお話は、長いかなと、ちょっと思いましたけれど、言っていることに「なるほど、なるほど」と思いました。尺は長いにしても、今まで阪神との比較や被害のことについて、さらにスマトラについても同じ津波ということで、きちんと話しをしてもらえたことが、とても有難かったと感じました。この「考える」のパートは、私にとって勉強になり、この番組の中で一番見ていて良かったと思えるところでした。

今後の報道の仕方は、復興に向けての「光」をどう指していくか?だと思います。まだまだ大変な人はいるけれども、前を向いている人たちのためにどのような報道をしていくのかを、皆で考えていかなければならないと思います。八木沢醤油さんが復興していくとか、かもめの玉子が作られ始めたとか。僕らの業界では酔仙ですよ、その酔仙をどう追いかけて行くのか。酔仙の樽がぶらさがった写真も、樽のところしか映っていないけれど、全体像で見たら本当にビルの上にもぶら下がっている。あのような象徴的なもの、これから復興していく

シンボルを、高田高校も勿論そうです、やっていかなければいけないと私は思っています。是非、沿岸部から復興の象徴を作るといふと変かもしれませんが、希望を与えられるような報道を是非して欲しいと思います。そのためにもきちんと振り返って、その時点でどうなのか。例えば1年後、来年の3月11日は皆いろんな事をやると思いますが、そこでどういっためんこいテレビのスタンスで報道していくのかを明確にしていくと、とてもいいのかなと思っています。

我々が忘れてはいけないし、我々が風化させては絶対いけない事だと思っています。その辺を地元のテレビ局に出来る事としてやって欲しいと思います。2時間という時間が長いか短いか、いろいろなご意見はあると思いますが、僕は長くてもいいと思います。短いよりは長くきちっと作りあげの方が正しいような気がします。その方が視聴者が考える内容も増えてくると思っています。これからも風化をさせないというのが、テレビの最大の使命だと思っています。ぜひ、風化させないでやっていただければと思います。ニューヨークの9.11のテロが、10年経ってもこうやって皆がしゃべっているという事は、あれはきちんと報道がやっていったからだだと思います。16年前の阪神のことなど全然言わないのに、9.11のテロはきちんと皆言うんです。そう言ったところをみんなもう一度考えて行く機会になればと思いました。ぜひ続けて行って下さい。

#### ○中村委員長

吉田委員をお願いします。

#### ○吉田委員

実に見応えのある番組だったですね。衝撃的な数々の場面、3日後、1週間後、1ヶ月後、そしてこれからの道標と、非常に分かり易く番組を構成していたと感じました。全体の中で私の心にグッと強く来た部分としては、人間の部分といいますか、両親を失くされたあの小さなサッカー少年の子どもたちが無邪気に遊んでいるシーン、ああいう姿を見れば見るほど痛ましさを感じます。そういう意味では、あのようなシーンをきっちりと捕らえたということで、それが番組の質を高めたのではないかと思います。

もうひとつは若い方、18歳の社会への旅立ちです。地元に残る人、地元を離れる人、それぞれの思いを番組の中で感じ取ることが出来ました。つくづく番組を見て感じさせられたのは、昨日までのごく普通の生活を、一瞬にして津波がその「普通」を奪い去ってしまう、

そこに何が発生するのか？ということです。番組を見る人は、メッセージを一番求めています。そういう意味では、前段での説明がありましたように、生きる力とか、さまざま新たな力というものを、見ている人に与えられるようなポイントがあった番組だと思いました。

特に私は、阪神淡路大震災から学ぶというところに、大変参考になることがあったと思います。視聴者の立場からしますと、いろいろな事を知っている方も中にはおられると思いますが、大半の方はなかなか内容をご存知ない方がいっぱいおられると思います。そうしますと、阪神の30万人の避難生活の中から、孤独死の問題ですとか、関連死という言葉自体もまだまだ理解されていない方がたくさんいると思います。あのような場面を見られた地元の方々とか、あるいは行政の立場から見てもいろんな問題を番組は投げかけたと思います。そういう意味では、狙い通りの内容がきっちりと入っていたと私は思いました。

これからの復興に向けての取組みが、かなりの長期間に渡って続いていくわけですけど、ぜひ、私なりにこういう視点で取り上げていただきたいと想っていることがあります。今後被災地の今を伝える、復興に向けた動きや課題をさらにきめ細かく伝えていく、そういったことは報道として使命であり役割は大きいと思います。やはり仮設住宅で生活をなさっている方々の本当の生の声を、いかに吸い上げていくかという事だと思います。私も現実にいるいろんな現場について話を聞きますと、人の話しで伝え聞くのとはおおよそ違った部分がかなりありました。今後はそういった辺りを取り上げていただきたいというのが一つです。もう一つは、一方でこれからの被災地の日常取り戻そうと奮闘している場面、再建の姿がどんどん生まれてくると思います。それを元気の源として取材し、伝えていくことが報道の使命として大きい事だと思います。

最後に、ここがこうあれば良かったと思ったことは、高田松原に1本だけ残った松のことです。私の小さい頃の記憶に、高田松原は美しい海岸線と松の木が印象として強く残っています。あれがスッカランになって1本だけ残っています。まさにあの松はシンボルです。画面の中には出ていましたが、あの1本の松の持つ意味というのは、力強さといえますか、天に向かって頑張っている、そのようなものがあると思います。あの松を画面で見せながら、何か解説といえますか、そんな様な事が欲しかったということが一点あります。

もうひとつ、こうあれば良かったと思ったことは、自衛隊員の方々のことです。番組では消防隊員の活躍がけっこう取り上げられていましたが、今後はいろんな意味で現場の裏方のご苦労という点で、自衛隊の方々の献身的な姿もぜひ、折に触れて取り上げていただきたいと思いました。当たり前のごとく「ガレキが整理されている」と言われておりますが、その

裏にはいろんな努力があると思います。そのようなことをぜひ、取り上げていただきたいと思いました。

いずれにしても、報道の狙いとして地元の人に役立つ番組、あるいは行政に対しても役立つ番組としてという点では、大変素晴らしい番組だったと思いました。

○中村委員長

三浦副委員長お願いします。

○三浦副委員長

東北電力の者として、座ったままで本当に恐縮なんですけど、長時間に渡って停電ということで大変なご不便をおかけした事につきまして、この場をお借りしてお詫び申し上げます。また、東京電力を含め原子力施設に関して、不安を多くの方に与えてしまっている事につきましても、改めてお詫び申し上げます。さらには、電力不足ということで計画停電、節電という形で重ね重ね不安を与えてしまっている事について、言葉で大変恐縮ですがお詫び申し上げます。今年1年は、何としても皆様にご不便をおかけしたくないわけですが、私ども全力をあげて安定して電力を供給するという事で一所懸命努力していきますので、よろしくお願ひいたします。

今回の番組につきましては、大人の嘆き以上に、子どもさんの淡々とした姿の映像が、どれだけの大きな悲劇があったのかという事を、非常に印象的に伝えてくれていました。

逆に子どもさんが画面に出る事で、高校生、若い方を含めて未来の可能性を示すことができ、両方とも象徴的に感じられて非常にいい映像になっていたと思います。

全体の番組のトーンが抑制された形になっていて、冷静な解説になっていました。そういう面でも非常に好感がもてました。メッセージ性が高くなるという意味で、非常に良かったと思います。三陸海岸は、自然景観に恵まれ、国立公園という事もあります。また、大変豊かな漁場をかかえるという事で、可能性はもともと十分あった地域です。今後は、そういった豊かな自然環境、また豊かな漁場をかかえた三陸の将来性をアピールしていただきたいですし、そういう番組を期待したいと思います。だいぶ前になりますが、平泉の紹介番組がありました。今回も復興に向けて、あのような形で未来への可能性を暗示する番組を作っていたら非常に有難いし、また期待したいと思います。

○中村委員長

初めて2時間の大作を見させていただきました。ある意味で力作だったと思います。今回の震災に関する素材は、たくさんあり余るほどあって、それをどういう風に料理をして、どういう番組を作ろうかという事で、2時間にはとても入りきれないようなものがあると思います。大変ご苦勞されたらうと感じました。まず、ご努力に敬意を表したいと思います。

大変長い番組でしたので印象深いところとか、あれ、「こんなのいるのかな」というものを含めていろいろありました。気になるところをお話しますと、3つに構成された番組のなかで、最初の「知る」という部分で気になったことは、防潮堤とか湾口防波堤、それらの減殺効果についてです。減殺効果があったという事で話しをしていましたが、本当か？というのがひとつあります。専門家の立場ではいろいろあるでしょうが、現実には防潮堤を津波が乗り越えるという問題が起きています。私も久慈から高田まで現地を見まして気になったことは、大体川沿いに津波が登っています。そこが皆やられている。それが防潮堤で逆に逃げられなくなって水溜りになっている感じがひとつあったと思います。なぜ、川に登って行くのを防げなかったのか。川を防潮するわけにはいきませんので、たぶん水門があったと思います。それがいじれなかったのか、効果がなかったのか、ということが非常に大きな問題としてあると思います。防潮堤も来る波に対しては、かなり強い構造で作ってある。しかし、引き返しの波に対してはコロッと行くような構造なのです。全部とはいいませんが、そういう作りが本当にいいのかどうかというところも、ちょっとよく見ていただきたかった。

それから気になったのは、宮城県の名取では高速道路が津波を防いでいました。高さや強さの問題はあるかと思いますが、あれは幅広く、きちっと両側を同じ構造で作っている。構造的な問題で今まで防潮堤の作り方は良かったのかという事をもう少し検証すると、簡単に減殺効果があったと言い切れるかどうかという事で、その言葉にやや気になった点がありました。

細かいところでは、両親が行方不明になった子どもの兄弟の話は、いろんな場面で他の所でも見させていただきました。大変、子どもたちのこれからが心配です。ご両親の状況を知った時にどういう風になるのか、どのような心理的な影響が出てくるのか。あの後、取材してフォローしていこうという話がありましたが、取材できるような状況があるのかどうかちょっと心配だったので、あの辺は十分気を付けながら取材していただきたいと思いました。あそこで気になったのは、直接この場面ではありませんが、「あの建物」という言い方を簡単にしていました。「あの建物」と出てくるけど、知らない人は何の建物が分かりませ

ん。病院？ あれは何ですか？あの建物って簡単に済ませたコメントでしたが、良く知っている人は「そうか」となると思いますが、何の建物か分からない、残っている建物だけを映しています。そういうコメントの出し方は良くないという気がしました。

2番目の阪神淡路大震災に学ぶ。これは大変良く解説していただいた方も含めて、良く作っていただいたと思います。いろいろとお話がありましたが、よく阪神淡路大震災に比べた話しが出てきます。被災者の数とか、避難している人の数だとか、総数でいろいろと議論するのですが、私は単純に比較はできないと思っています。全然違います。地域性も違う、広がりも違う、岩手でも北から南で被害の大きさが違います。そういう意味で単純に比較してほしくない。よく分析して物を言って欲しい。特に中央の局がひどいです。簡単にそう言ってしまって、阪神淡路に比べて遅いとかという批判を簡単にします。そういう状況でないことの基本的な事をきちんと押さえてほしいという感じがしました。これについてはもっとしっかりした番組を今後作っていただきたくしたら有難いと思いました。

その後の「前を見る」という所では、それぞれ特徴のある番組作りをしていましたが、私が一番おもしろかったのは、宮古災害FMに軽部アナがやってきた所です。あの避難所の女の子に歌を歌わせたということもありますが、軽部さんだけがあの場面を作ったわけではなく、たぶん高橋さんがいろいろと編集したのだと思います。いずれ全体として非常に自然な作りでした。話しを上手に引き出して、さすが軽部さんだなという感じを抱かせたことが、私は非常に興味深かった。それに比べてその前の高田高校は、いかにも作っていたという感じでした。あまりにも極端だったので非常に印象深かったです。軽部さんだけが非常に持ち上げられているような状況を作り上げていたので、さすが軽部さんだなあという意味で見させていただきました。

18歳の男の子たち3名、これは私も非常に興味深く見ました。特に東京に行って「普通で羨ましい」という言葉を吐いたのは非常に印象深かったです。ちょっと気になったのは赤崎君です。どうしたのでしょうか？一番最初に出した赤崎君の話しが、後は何のフォローもありませんでした。あれ大学へ行ったの？どこの大学へ行ったの？どうなったの？視聴者としては気になる場所でした。

細かいところはそういうところですが、全体として、ちょうどお昼のこの時間に2時間の番組を、ずっと見ていた人が何人いるのかなど？内容が非常に重たいですよ、豊富ですよ、それを引き付けるようなものも中味としてはあるわけだけど、3つに分けた事もあって、もしかしたら真ん中辺で皆、席を立ったという感じもします。内容は、どれを取っても非常に

大事なので、これは出来れば3つないし4つの番組に分けて、きちっと内容を深めて再放送されては如何でしょうか。新しい情報も追加して、30分か40分でじっくり見せていくような、なるほどと思わせるようなものにしていただけたらいいなと思いました。

2時間ずっと見せていただいて、この番組は、いろいろと教えてくれるけれど何を言おうとしているのかというのが良く分からなかった。ただ教えているだけではないかという感じがしました。そういう意味で、ひとつのテーマは震災の実態ですよね。津波がどんな風な状況になっているのか？防災はどれぐらいなのか？今回の津波に関する記録版的なシーン、今回でいえば前半の部分です。そういうシーンを、少し整理をして見せていただくとか。被災地の今と今後どうあろうかという所を、少しじっくり見せていただきたい。これからもまたいろいろあると思います。

それから阪神淡路大震災から学ぶというところを、少しじっくりとやってほしい。これだけ取り上げていると、話しかけなのでつまらなくなります。これに何を絡ませてやるか。関西テレビの橋本さんは大変豊富な経験をもとにお話をいただいたんですけど、もう少し図面が欲しかったですし、できれば現地の実情を知っている人に話しをして欲しかった。南先生がどれぐらいご存知なのか？あの話しの中からだけでは、あまり具体的な話しがありませんでした。一方で問題提起だけはありました。もっと具体的な事を話せる人を呼んで、南先生と話しを交わしていただけるようなシーンを作っていただけると良かったと思います。先ほど久慈委員が言われたように、復興に向けて頑張っている人たち、将来の希望、展望を与えてくれるような、そういう人たちをうまく集めて力づけてくれるような内容とか、4つか5つに分けてやっていただいたり、これからも繰り返し繰り返し放送していただけると有難いと思いました。いずれにしても大変素晴らしい番組を作っていただきましたので、今後もこういうものを作っていただいて、何回も何回も忘れないように見せてください。

私の話しはこれで終わりますが、委員の皆様、何かご質問とか、いい足りなかったことはありませんか？

それでは、事務局から欠席委員のレポートがあればお願いします。

## ○事務局

斎藤純委員のレポートです。

震災後、どうも何かにつけて涙もろくなりました。この長い番組のなかでも何度か涙を拭

いました。特に子どもたちの健気な姿には打たれます。彼らを見ていると、私などがへこんでいる場合ではない、と叱咤されているような気がします。

関西テレビの橋本記者の解説や提言がとても参考になりました。岩手は行政の遅れが目立ち、NPOとの連携も今ひとつかみ合っていないところがあります。関西などから来ているNPOも「岩手だけの（悪い）特徴」と口を揃えます。

しかし、それをマスコミが報じると、行政（はっきりいって、岩手県庁）はますます依怙地になるので、難しいところです。

神戸の復興の際に、区画整理をめぐって行政と市民の対立したことがサラリと触れられましたが、これはもう少し詳しく解説してほしいと思いました。もっとも、これは今後の問題でもあるので、あとで改めてやってもらっても遅くはありません。ぜひお願いします。

力が入った特別番組でした。これだけ長い番組だと見る側も大変ですが、今後も続編をつくりつづけてほしいと思います。

東海林委員のレポートです。

3年前、三陸大津波の教育用DVDの制作に携わっておりました。当時は、安全に慣れた現代の小学生にとっては、津波に流されていく人影は指をさして笑う対象でした。

でも3年前に笑っていたあの釜石の小学生は、今回きっとあの映像を思いだしながら高台に向けて走ったに違いないのです。

震災から1ヶ月たち、復興へのビジョンを示すためにも、後世に教訓として残しておける番組にするためにも、その時々課題を記しておいてほしいと思います。

今回の番組は、復興に向けて動き始めているんだ、というメッセージは伝わってきましたが、現状の問題点についてはあまり触れられていなかったという印象です。すべてがうまくいっているわけではないと思います。

まだまだこれから対処していかなければならない新たな課題が、次々に生まれているものと拝察いたします。

個人的には、現在関心ある課題は2つ

- ①現地入りするボランティアの問題と
- ②仮設住宅に入ることができた方が抱える問題 です。

「自分にも何かできないだろうか」という理由で、一般人が被災地に向かう文面が twitter

でもたくさん書かれています。でも被災地ボランティアは自分さがしの道具ではありません。

マスメディアが、有名人の誰が炊き出しにきた、コンサートを行なったと、連日報道をしていますが、それで勘違いが起こっているのも事実です…。

仮設住宅入居は、大家族と小さい子どもがいる家族が優先されると聞きました。ということは震災前は全く違う地区で暮らしていた人たちが仮設住宅では隣近所になるわけです。コミュニティにしても、心の問題にしても、神戸の実例の通り、仮設ができたから支援は終わり！では済まされないはず。

友人の話では、「まな板はペラペラで、フライパンも目玉焼きが1個しか焼けない大きさで、結局は買わなきゃない」とか「近くのホームセンターは、便乗値上げしてる」と、その後も課題は山積みです。

ニュースから知りたいことは、たくさんあります。

でも毎日のニュースでは、「ボランティアは時に迷惑」と言えない被災者もいるかもしれません。ただ、特別番組なら言えるかもしれません。

今回の番組では、みな、前向きな方々しかでてきませんでした。これでは、私たちは、復興はうまくいっていると勘違いしてしまいます。

いいのかな…とちょっと心残りする2時間でした。

村上委員のレポートです。

「スーパーニュース特別版」は、放送日の4月10日に自宅で見ました。春らしい陽気の日曜日の昼下がり。津波の映像は、そんな日常を一瞬にして凍りつかせるような衝撃でした。何度見ても慣れることはありません。また、わずか1ヵ月前の出来事とは思えないこの時間の感覚は、何にたとえたらいいのか見当もつきませんでした。

報道番組のセオリーどおり、いつどこで何が起こったかを整理しつつ、事実に沿って簡潔に振り返る視点が貫かれていたと思います。とはいえ、まさに未曾有の出来事の連続。どこにスポットを当てても正解のようにも思えるし、逆に何をどうやってもまったく不足であるような印象はぬぐえませんでした。編集作業も大変だったろうと推察しますが、たぶんこれはすべてのメディアの人が感じるジレンマだろうし、個人個人がそれぞれの立場で振り返っても同じだろうと思います。

復興のビジョンを語るのに1ヵ月という時間が適切なのかどうかはわかりませんが、節目

ごとに記録と記憶を整理して、検証していくことは大切なことだと思います。あの地震と津波からちょうど2ヵ月。これからも引き続きタイムリーな情報をお願いします。

○中村委員長

それでは、以上で本日の議事はこれで終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

○事務局

中村委員長、ありがとうございました。

今回の審議会の模様は5月21日(土)朝4時42分から「めんこいテレビ番組リポート」として放送いたします。

次回は6月14日の正午より、こちらの会場での開催となりますので、よろしくお願い致します。

それではこれで番組審議会を閉会とさせていただきます

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

\* 平成23年5月11日(水) 産経新聞 東北版

**番組審議会**  
岩手めんこいテレビ  
番組では東日本大震災から1ヵ月が経過した被災者の生活や阪神大震災を教訓とした復興への課題などを伝えた。委員からは「被災地の若者の頑張り、熱意に感動した」などと評価する半面、「課題解決に向けた掘り下げが足りなかった」との指摘があった。

\* 平成23年5月21日（土）午前4時42分から4時45分まで「めんこいテレビ番組リポート」内で放送

\* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

## 9. その他の参考事項

特になし